

2023 年度（対象年度：2022） 自己点検・評価シート

基準 4	教育課程・学修成果	1/2
------	-----------	-----

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
401/402	「3 つの方針検証委員会」を基軸とした教学マネジメント体制のもとで、継続して検証・改善を行い質保証の充実に努める。
403	「ナンバリング」導入による、教育課程の順次性・体系性の明示の促進

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》	*各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
大学院においては、2022 年度以降、重点政策の策定だけではなく、その実施状況や成果を確認し各研究科の教育課程の改革・向上に繋げることが望まれる。【留意点】	
学士課程における単位の実質化については、資格課程の履修による履修制限単位数（CAP 制）を超える登録について、学習時間の確保の注意喚起だけでなく、具体的な対策の検討が望まれる。【留意点】	

<【参考】認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
・文学部では1年間に履修登録できる単位数の上限を48単位と定めているものの、教職課程、図書館司書課程又は学校図書館司書教諭課程等資格課程に関わる科目は上限を超えて履修登録することを認めている。これにより実際に上限を超えて多くの単位を履修登録する学生が一定数おり、大学として組織的に、予習及び復習時間を確保する必要がある旨を履修説明会等で周知し、1単位あたり45時間の学習の確保に努めているものの、単位の実質化を図る措置をより促進することが望まれる。【助言】

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
401	授与する学位ごとに、卒業認定・学位授与の方針(※)を定め、公表しているか。 (※研究科は、学位授与の方針) ①課程修了にあたって、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい資質・能力を明示した卒業認定・学位授与(※)の方針の適切な設定(授与する学科ごと)及び公表 (※研究科は、学位授与の方針)	A
402	授与する学位ごとに、教育課程編成・実施の方針を定め、公表しているか。 ①下記内容を備えた教育課程編成・実施の方針の設定(授与する学科ごと)及び公表 ・教育課程の体系、教育内容 ・教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等 ②教育課程編成・実施の方針と卒業認定・学位授与(※)の方針との適切な連関性 (※研究科は、学位授与の方針)	A
403	教育課程編成・実施の方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	A

	<p>①各学部・研究科において適切に教育課程を編成するための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程編成・実施の方針と教育課程の整合性 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮 ・単位制度の趣旨に沿った単位の設定 ・個々の授業科目の内容及び方法 ・授業科目の位置づけ(必修、選択等) ・各学位課程にふさわしい教育内容の設定 ＜学士課程＞初年次教育、高大接続への配慮、教養教育と専門教育の適切な配置等 ＜修士課程、博士課程＞コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮等・ ・教育課程の編成における全学的な教学マネジメントの関わり <p>②学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施</p>	
404	<p>学生の学修を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。</p> <p>①各学部・研究科において授業内外の学生の学修を活性化し効果的に教育を行うための措置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学位課程の特性に応じた単位の実質化を図るための措置 (1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定等) ・シラバスの内容(講義概要、到達目標、講義方法、授業時間外における予・復習の指示、成績評価の方法、講義計画等の明示)及び実施(授業内容とシラバスとの整合性の確保等) ・学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容及び授業方法 (教員・学生間や学生同士のコミュニケーション機会の確保、グループ活動の活用等) ・学修の進捗と学生の理解度の確認 ・授業の履修に関する指導、その他効果的な学修のための指導 ・授業外学修に資する適切なフィードバックや、量的・質的に適当な学修課題の提示 ・適切な履修指導の実施 ＜学士課程＞授業形態に配慮した1授業あたりの学生数 ＜修士課程、博士課程＞研究指導計画(研究指導の内容及び方法、年間スケジュール)の明示とそれに基づく研究指導の実施、 博士後期課程における、学識を教授するために必要な能力を培うための機会の 設定又は当該機会に関する情報提供 ・各学部・研究科における教育の実施にあたっての全学内部質保証組織等の全学的な教学マネジメントの関わり(教育の実施内容・状況の把握等) 	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

<p>現状、「何を」規定又は実施している、「いつ」「どの会議で(誰が)」「どのように(指標・方法)」検証・分析を行い、「どのように(基準)」自己評価していますか。</p>
<p>401① 402①②</p> <p>学位授与の方針(DP)、教育課程の編成・実施方針(CP)については、毎年、学部・研究科等において、年度初めの教授会等で確認がなされ、その適切性が確認されている。学士課程においては、「3つの方針一体的見直し作業部会」において全学的な見直し作業を進め、2019年度入学生より新たなDPとCPを適用することとなった(2018年度第6回全学教学政策会議<2019.1.24>報告)。DP、CPについては、HPにて広く公表されており、履修要項にも明示している。加えて、2019年度は、これらのDP及びCPとの整合が取れるよう、入学者受け入れの方針(AP)の見直しを行った。2022年度においても「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」について、3つの方針検証委員会にて全学的見地からの確認および一部修正等を行うなど、質保証の充実に取り組んでいる[401a、b]。また、確認された内容については、HPにおいても適宜更新、公表を行っている。</p> <p>403①② CPと教育課程との整合性については、毎年、教学部から各学部・研究科宛に学則の変更に係る確認依頼を行っており、それにあわせて各学部・研究科では確認がなされ、必要に応じて変更がなされている[403a]。単位設定については、大学設置基準に基づき、各学部・研究科において科目修得のために必要な授業時間数を履修要項に明示し実施しており、単位制度の趣旨に沿ったものとなっている[403bc]。</p>

また、教育課程の順次性および体系性を明示すべく、2019年度に「龍谷大学における全学共通ナンバリングコード体系」を策定した(第7回学修支援・教育開発センター会議及び第5回全学教学政策会議<2020.3.19開催>) [403d]。この策定をうけて、2020年度から各学部・研究科(学部共通コース等を含む)に対して、ナンバリング導入に関する調査を行っており、2022年度時点では、3学部2研究科において導入済として報告され、2023年度以降も順次各教学主体において導入が予定されている

[403e]。

学士課程においては、「教養教育カリキュラムマップ」を策定し、教養教育と専門教育の配置等に係る概要を示すとともに、各学部履修要項に掲載している[403f]。また、教学会議において、各学部による入学準備サポートプログラムの総括結果及び成果を共有し、入学前教育を含む初年次教育をはじめとした教育内容の設定等について確認を行っている(2022年度第5回教学会議/2022.07.15開催) [403g]。また、2022年度においては、アセスメントプランによる全学的な視点である「大学全体レベル(全学)」の指標にもとづき検証を行い、CPの検証として設定している指標について、検証を行った[403h]。

大学院については、各学位課程(修士課程・博士後期課程)に相応しい教育内容となっているか、大学院教学会議において前年度活動状況と当該年度の重点政策について確認しており、各研究科の教育内容を確認するとともに、意見交換を行い、その適切性を確認している。また、大学院教学会議では、各研究科の重点政策の確認のほか、課題である定員充足に向けた検討状況を確認しており、各研究科による主体的な取り組みを促進している[403i]。2022年度には、学修成果の測定を目的とする新たな取り組みとして、2023年3月修了の大学院生に対して、大学院生に保証する基本的な資質意識調査を実施し、教育課程の編成への活用を予定している[403j]。

404① 単位制度の趣旨を考慮した単位の実質化を図るための措置として、学生が受講登録できる単位数に対して上限設定を行っている[404a]。また、文学部では2020年度から履修制限単位数を超える学生を対象に学修状況の実態把握を目的としたアンケートを実施し、状況把握するとともに、学修の影響が懸念される場合には面接指導を行っている。面接指導の対象者の割合は経年比較でも減少傾向が見られる[404b]。

また、資格課程の履修により、登録単位数が増え学修量が増加するケースがあることから、随意科目等の履修を必要とする教職課程においては、教職課程ガイドブックの冒頭部分にも注意事項として「履修登録制限単位について」を記載し、教職課程履修希望者を対象とした説明会においても、予復習にかかる学修時間の確保や綿密な履修計画の策定を行うよう教員より注意喚起を行う等継続的に指導を行い、単位制の実質化に対応した取り組みを行っている[404c,d]。

授業時間外における学生の学修を促進するために、シラバスにおいて「授業時間外における予・復習等の指示」欄を設けている。シラバスの記載内容として、「講義概要」、「到達目標」、「講義方法」、「成績評価の方法」があり、アウトカムベースのシラバスとなっている[404e]。

また、受講生が多くなる傾向にある教養教育科目については、次年度の受講登録学生数を予測して、クラス数を決定している。受講登録学生数が確定した段階で、クラス分割等が必要となる授業については、開講クラスを増加するなどの措置を講じている[404f]。

学生の学修状況の把握および教員と学生の連絡方法等については、各教学主体に対して、まずは現状について確認、報告を求め、改めて授業における受講学生と担当教員との個別の連絡手段の確保について、依頼を行った [404g]

大学院においては、すべての研究科で、各学位課程(修士課程・博士後期課程)における研究指導計画を作成している。これに関連する研究指導の方法や年間スケジュールについては、履修要項で明示しているほか、演習科目のシラバス等でも明示するように努めている[404h]。

以上のことから、教育課程・学修成果について、適切に取り組んでいると評価する。

長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの

項目 No.

項目 No.

課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点

401/402

学部・研究科の教育理念・目的と3つの方針の連関性、および整合性の検証。

項目 No.

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み	*成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
401① 402①②	学位授与の方針（DP）、教育課程の編成・実施方針（CP）については、毎年、学部・研究科等において、年度初めの教授会等で確認がなされ、その適切性が確認しているほか、各学部・研究科の教育課程の変更等に際しては、「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」について検証を行い、必要に応じて変更を行い、その結果を「3つの方針検証委員会」や「大学院教学会議」で全学的見地からの確認及び一部修正等を行うなど、質保証の充実に努めている。
403①②	学士課程においては、「龍谷大学における全学共通ナンバリングコード体系」を策定し、2021年度もナンバリング導入に関する調査を継続して実施し、3学部1研究科で既に導入され、2022年度には2学部2研究科1コースで導入予定となっている。また、大学院では、大学院教学会議にて各研究科の重点政策とともに、課題である定員充足に向けた検討状況を確認しており、各研究科による主体的な取り組みを促進している。2022年度には、学修成果の測定を目的とする新たな取り組みとして、2023年3月修了の大学院生に対して、大学院生に保証する基本的な資質意識調査を実施し、教育課程の編成への活用を予定している。
404①	履修登録制限単位数を超える学生を対象に適切な学修時間の確保等を目的とした新たな学修指導を実施するための取り組みとして、文学部では学修状況の実態把握を目的としたアンケートを行ったほか、教職課程では予復習に係る学修時間の確保、綿密な履修計画を策定するように注意喚起に努めた。
404①	「教養教育カリキュラムマップ」を各学部の履修要項（WEB及び冊子）に掲載し、教養教育と専門教育の配置等に係る概要等を明示した。

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
401/402	「3つの方針検証委員会」を基軸とした教学マネジメント体制のもとでの継続的な質保証の充実
403	「ナンバリング」導入による、教育課程の順次性・体系性の明示の促進

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
401	a	「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」の変更にかかる報告について（依頼）
401	b	大学院における「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」の変更にかかる報告について（依頼）
403	a	学則変更（案）の報告について（依頼）
403	b	2022年度各学部履修要項
403	c	2022年度各研究科履修要項
403	d	全学的なナンバリングコードの策定について（提案）
403	e	ナンバリングの導入に関する状況調査結果について
403	f	教養教育カリキュラムマップ
403	g	2022年度第5回教学会議 資料
403	h	2022年度第2回・第3回3つの方針検証委員会次第
403	i	2022年度第2回大学院教学会議 資料
403	j	大学院生に保証する基本的な資質アンケート様式（全研究科）
404	a	履修登録制限単位数一覧
404	b	履修登録制限単位数を超えて履修する学生への学修状況調査および指導の実施について（提案）

		<2020～2022 年度>
404	c	2022 年度 教職課程ガイドブック (抜粋)
404	d	教職課程説明会配布資料
404	e	シラバス作成の手引き
404	f	2022 年度第 8 回教養教育会議 及び 教養教育会議、教学会議、学修支援・教育開発センターとの合同会議 議事録
404	g	授業における受講学生と担当教員との個別の連絡手段の確保について (修正提案)
404	h	各研究科 研究指導計画書

II. 評価結果

総評
<p>401① 402①②</p> <p>・「学位授与の方針」、「教育課程の編成・実施方針」はweb上に公表するとともに、履修要項にも明示している。くわえて、「学位授与の方針」、「教育課程編成・実施の方針」について、3つの方針検証委員会にて全学的見地からの確認および一部修正等を行うなど、質保証の充実に取り組んでいる。</p> <p>403①</p> <p>・2019年度に、順次性及び体系性を示す「龍谷大学における全学共通ナンバリングコード体系」を策定している。この策定をうけて、2022年度時点では、3学部2研究科において導入済として報告され、2023年度以降も順次各教学主体において導入が予定されている。また、学士課程では、教養教育科目の順次性および体系性を示す「教養教育カリキュラムマップ」を策定し、各学部の履修要項 (WEB版を含む) に掲載している。その他、2022年度は、アセスメントプランによる全学的な視点である「大学全体レベル (全学)」の指標にもとづき検証を行っている。</p> <p>・大学院 (修士課程・博士後期課程) では、毎年度、前年度の活動状況と当該年度の重点政策を確認している。2022年度は、3月修了の全ての大学院生に対して、「大学院生に保証する基本的な資質」意識調査を実施した。その結果を踏まえて、カリキュラムの点検・改善に活用しようとしていることは評価できる。</p> <p>403②</p> <p>「②学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成する教育の適切な実施」についての記述ならびに評価がないので、次年度以降注意してもらいたい。</p> <p>404①</p> <p>・単位の実質化を図るため、履修登録制限単位数 (CAP制) を設定している。昨年度 (対象年度は2021年度) 課題事項として指摘された資格課程の履修による履修制限単位数 (CAP制) 【留意点】については、文学部で制限単位数を超える学生を対象にアンケートを実施して、状況を把握するとともに、面接指導を行なっている。しかし、注意喚起だけでなく、さらに踏み込んだ具体的な対策の検討が望まれる。また、効果的に教育を行うため、学士課程の教養教育科目では、受講生が多いと予測される授業科目や受講登録学生数が確定した段階でクラス分割等が必要となる授業科目については、複数開講や開講クラスを増加するなどの措置を講じている。さらに、2022年度において、学士課程の学生の学修状況の把握および教員と学生の連絡方法等について、各教学主体に対して、現状報告とともに受講学生と担当教員との個別の連絡手段の確保について、依頼を行った。</p> <p>以上、「学位授与の方針」、「教育課程の編成・実施方針」を公表し、「教育課程の編成・実施方針」は教育課程と整合性しているものと評価できる。また学部・研究科はナンバリングコードを導入するなど、教育課程を体系的に編成することに努めている。</p>
長所・特色《箇条書き》
<p>・各学部・研究科はナンバリングコードを導入するなど、教育課程を体系的に編成することに努めている。全学部・研究科にナンバリングコードを導入することが期待される。</p>
課題事項《箇条書き》 *各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

【大学全体】

- ・大学院においては、重点政策の策定だけではなく、引き続き、その実施状況や成果を確認し各研究科の教育課程の改革・向上に繋げることが望まれる。【留意点】
- ・資格課程の履修による履修制限単位数（CAP 制）を超える登録について、学修時間の確保の注意喚起だけでなく、さらに踏み込んだ具体的な対策の検討が望まれる。【留意点】

2023 年度（対象年度：2022） 自己点検・評価シート

基準 4 教育課程・学修成果

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし

<【参考】認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
404	学生の学修を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。 ①各学部・研究科において授業内外の学生の学修を活性化し効果的に教育を行うための措置 ・授業の内容、方法等を変更する場合における適切なシラバス改訂と学生への周知 ②教育改革・教育改善の推進 ・龍谷 IP	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
404① 本学では、シラバスを学生の主体的な学びを促すためのツールと位置づけ、シラバスの記載方法を示した教員向けの「シラバス作成の手引き」を作成し、毎年見直しを行っている。2023 年度版については、講義方法、アクティブ・ラーニングの定義、提出された課題等に対するフィードバックの記載方法について更新を行い[404a]、2022 年度第 7 回学修支援・教育開発センター会議（2022 年 11 月 18 日開催）及び 2022 年度第 8 回学修支援・教育開発センター会議（2022 年 12 月 2 日開催）にて審議・報告を行った [404b, c]。

404② 新たな教育プログラムの創出により、本学の教学促進・充実を図ることを目的とする「企画選定型」の事業として、龍谷 IP (Inventive Program) 事業[404c]を設けている。本事業は、事業経費を一定期間支援するとともに、支援期間中に優れた教育成果をあげた取組について事業継続を支援することを目的としている。

2022 年度第 8 回採択型教学充実推進委員会（2022 年 9 月 9 日～14 日 メール審議）において、龍谷 IP 事業に関わる採択候補の選定を行い、2022 年度第 19 回部局長会（2022 年 9 月 22 日開催）にて審議を行った[404e,f]。また、龍谷 IP 採択取組の事業評価について、2022 年度 第 5 回採択型教学充実推進委員会（2022 年 6 月 22 日開催）において、2019 年度の事後評価を実施し、評価結果について、2022 年度 第 13 回部局長会（2022 年 7 月 7 日開催）にて審議を行った[404g,h]。2022 年度 第 2 回採択型教学充実推進委員会（2022 年 5 月 20 日開催）において、2019 年度及び 2020 年度の予備評価を実施し、評価結果について、2022 年度 第 8 回部局長会（2022 年 6 月 2 日開催）にて審議を行った[404i,j]。2022 年度に経常化された事業は先端理工学部の事業であり、今後の課題等について通知を行った[404p]。龍谷 IP 事業としては、全学的な普及があると考え、各学部の FD 活動の支援やそのほか共通する事項に関する FD の開催等を行っていく必要があると考える。

また、教育改革・教育改善の推進の一つとして、「2021 龍谷大学 ICT 教育（オンライン教育含）推進計画」「オンライン授業実施要件」及び「オンライン（オンデマンド）授業推進方策」[404k]に基づき、2022 年度に試行するオンライン授業科目として、各教学主体において合計 81 科目を選定し[404l]、授業改善とともに、実施事例の共有を通じて、教育の質の維持、さらなる向上につなげることを目的に各科目の担当教員による自己点検を実施した[404m]。そのほか、「龍谷 ICT 教育賞」[404n]を実施し、ICT を活用した教育効果の向上をはかる実践的な取り組みを募集、優れた取り組みを表彰し、教育の質向上のためにその成果の共有を図った[404o]。これらの取組について、2022 年度 第 4 回全学教学政策会議にて、総括を行った[404q]。

以上のことから、学生の学修を活性化し、効果的に教育を行うため、「シラバス作成の手引き」の更新、龍谷 IP 事業の実施、またオンライン授業科目における自己点検の実施を行い、適切な会議体において審議及び報告を行っていることから、教育改革・教育改善の推進は、適切に進められていると判断している。

長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの

404	特になし
項目 No.	
課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点	
404	特になし
項目 No.	

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない
特になし

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
404	特になし

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
404	a	シラバス作成の手引き 2023
404	b	2022 年度第 7 回学修支援・教育開発センター会議次第 (2022 年 11 月 18 日開催)
404	c	2022 年度第 8 回学修支援・教育開発センター会議次第 (2022 年 12 月 2 日開催)
404	d	龍谷 IP 実施要項
404	e	2022 年度第 8 回採択型教学充実推進委員会議事録 (2022 年 9 月 9 日～14 日メール審議)
404	f	2022 年度第 19 回部局長会議案・資料 (2022 年 9 月 22 日開催)
404	g	2022 年度第 5 回採択型教学充実推進委員会議事録抜粋 (2022 年 6 月 22 日開催)
404	h	2022 年度第 13 回部局長会議案・資料 (2022 年 7 月 7 日開催)
404	i	2022 年度第 2 回採択型教学充実推進委員会議事録抜粋 (2022 年 5 月 20 日開催)
404	j	2022 年度第 8 回部局長会議案・資料 (2022 年 6 月 2 日開催)
404	k	2021 龍谷大学 ICT 教育 (オンライン教育含) 推進計画・実施要件・推進方策
404	l	教学会議・学修支援・教育開発センター会議合同会議資料・議事録 (2022 年 1 月 14 日開催)
404	m	教学会議・学修支援・教育開発センター会議合同会議資料 (2022 年 11 月 18 日開催)
404	n	2022 年度「龍谷 ICT 教育賞」実施要領
404	o	2022 年度「龍谷 ICT 教育学長賞」公開審査会チラシ
404	p	龍谷 IP 採択事業[第 2 期]に係る事業評価 (事後評価) 結果について (通知)
404	q	2022 年度 教学政策の総括について<抜粋>

II. 評価結果

総評
<p>404①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、「シラバス作成の手引き」を作成し、適宜見直しを行い、学生の学修の活性化を図っている。 <p>404②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本学の教学促進・充実を図ることを目的とする龍谷 IP (Inventive Program) 事業は、学生の学修を活性化し、効果的な教育を行うための支援策と高く評価できる。 ・「2021 龍谷大学 ICT 教育推進計画」等に基づき、オンライン授業科目として計 81 科目を選定し、学生の学修の効率化や情報活用技術の向上など、教育の質の維持・向上に取り組んでいる。また、「龍谷 ICT 教育賞」を設けて、優れた取り組みを表彰し、その成果の共有を図っている。 <p>以上、学生の学修を活性化し、効果的に教育を行うため、教育改善を適切に推進していると評価できる。</p>
長所・特色《箇条書き》
<ul style="list-style-type: none"> ・龍谷 IP (Inventive Program) 事業を通じて、本学の教学促進・充実を図っている。 ・「2021 龍谷大学 ICT 教育推進計画」等に基づき、ICT を効果的に活用した教育推進を積極的に図っている。
課題事項《箇条書き》 *各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載
特になし